



すべての視力障がい者に福音を！ キリスト教良書を！

# ホ・ロゴス

2020年10月  
57号

## ὁ λόγος

ホ・ロゴスとは、ギリシャ語で「言葉」という意味。英語に言い換えると“The Word”。このタイトルは、静岡盲人伝道センター広報誌第2号（1969・11月発行）から使われ、ヨハネによる福音書の冒頭「初めに言（ことば）があった言は神と共にあった」から引用されている。視力に障がいを持つすべての人に福音を、という熱い祈りが込められている。



### 維持会員募集中!

当センター事業の維持・継続のために、皆さまのご入会をお願いしています。維持会員への加入は、1ヶ月一口100円から受け付けます。詳しくはセンターへお問い合わせください。

## 主に在る信仰と献身

理事長 遠山信和  
(改革派静岡教会牧師)

今年の2月に行われた理事会で理事長に選ばれました遠山信和と申します。静岡キリスト教育人伝道センターの働きのために、様々なかたちで御支援いただいております皆様に心より感謝申し上げます。

2020年という年は、「新型コロナウイルス」の広がりとともに、世界中でロックダウンや自粛が求められ、キリスト教会も集まることによる感染を防止するために少人数での礼拝やウェブ礼拝などによって礼拝を行う教会も多数あったと思われれます。

しかし、その間も、静岡キリスト教育人伝道センターでは、月刊誌や貸出業務など、ほぼ通常通り行うことが出来ました。多くの皆様のご協力によって音訳や点訳、デイジー編集などの働きも行うことが出来ましたことを心より感謝いたします。

賀川豊彦の「一粒の麦」という書物の中に、次のような祈りがあります。

「天の父よ。今朝、われわれの醜い姿を新しく感じて恥ずかしいと思います。この後、あなたの道をまっすぐに歩ませて下さい。多くの兄弟姉妹たちが、過去の汚い自己を葬り新しく神に生きんことを誓っています。どうぞ、その決心を起し

た兄弟たちが神に従い、十字架の血潮を、その生活に活かし、キリストのごとく勇敢になって、一生を貫くようにして下さい。われわれが、すべてキリストの血潮を浴びたものとして造りかえられ、一人一人が小さいキリストとなり、黙って人の尻拭いをする道を歩ませて下さい。あなたの栄光を現すために一生を棒に振る勇気を与えて下さい。今や日本は未曾有の危機の危機に臨んでいます。願わくは、われわれをして、日本の地に染み込ませ、新しい生命の芽生えしめる一粒の麦とならしめて下さい。貴い血潮を流すものとならせて下さい。われわれのために救いを完成し給いしキリストによって祈ります。アーメン。」



味わい深い祈りです。キリストの道をまっすぐに歩むことは、このような信仰の祈りに生きることでもあると思います。「一人一人が小さいキリストとなり、黙って人の尻拭いをする道を歩ませて下さい。あなたの栄光を現すために一生を棒に振る勇気を与えて下さい。」こうした祈りの中に賀川さんのキリストに対する「信仰と献身」の深さを見る思いがいたします。

2020年というこの年は、世界中の人々が世の終わりの近いことを感じ、恐れや不安を覚えた年ではないかと思えます。このような時こそ、賀川さんが祈られたようなとりなしの祈りが求められている時ではないでしょうか。

静岡キリスト教育人伝道センター広報誌「ホ・ロゴス」第57号 2020年10月発行

発行人：理事長 遠山信和 印刷：ワークホーム聖恵

発行：静岡キリスト教育人伝道センター

〒422-8041 静岡市駿河区中田一丁目5-21

Tel 054-285-0496 Fax 054-285-0746 振替 00870-2-7003

Eメール：shizumouden@dct7.net HP：http://www.dct7.net/

開館時間：祝日等を除く月曜日から金曜日 午前9時～午後5時

# センターはこんな働きをしています！

静岡キリスト教盲人伝道センターの働きのために、皆様から多くのご加禱・ご支援をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。今年は、コロナウィルスの広がりや感染防止のために各地で自粛を視野に入れながらのお働きをしておられるのではないかと思います。そうした中、当センターでは、ボランティアの皆様のご協力をいただいで、ほぼ通常通りの働きが出来ておりますことを心より感謝いたします。



## コロナ禍における信仰生活

世の終わりが近いことを感じさせられる今日  
新しい生活様式が模索される中、  
困難とどのように向き合うか、  
私たちに与えられた  
大きな課題です。

### お知らせ

盲人伝道センターには、キリスト教専門の点字図書館と、鍼・マッサージを行う盲婦人ホームがあります。

長い間盲婦人ホームを支え、鍼灸の治療を続けてこられた汐沢はま姉が、今年2月脳出血のために病院に入院し、リハビリの訓練を続けてこられましたが、治療の仕事が出来なくなりました。現在盲婦人ホームの働きは休止中です。

盲婦人ホームのため、そして汐沢姉の回復のためにお祈りいただければ感謝です。

### ◆『ヨハネの黙示録講解 苦難の中にある希望』

望月明著、2011年、いのちのことば社発行（CD1枚）

終末と新天新地についての預言の書「ヨハネの黙示録」は、迫害下にある信徒を励まし、希望に生きることを訴える手紙でもある。黙示録の書かれた時代背景や黙示文学の特徴をとらえて、丁寧に解説。

### ◆『それでも希望を見上げて 「世の光」ライフ・ライン」パイブルメッセージ集』

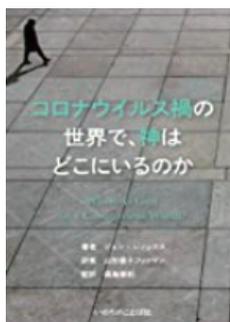
羽鳥明・村上宣道ほか著、2012年、いのちのことば社発行（CD1枚・点字1冊）

先行きの見えない世の中、絶望に沈む人々に手渡したい伝道文書。信仰と愛と希望を伝える好評のメッセージ。

### ◆『山上の説教 終末時を生きる』

井上良雄著、1994年、新教出版社発行（CD1枚・点字4冊）

今、世界は、早急に解決しなければならないがしかし、非常に解決困難ないくつかの問題を抱えている。地球終末のイメージが人類を覆う中、イエスの「山上の説教」の中に語られた言葉の中に、困難を克服するヒントをさぐる。



### ◆『コロナウィルス禍の世界で、神はどこにいるのか』

ジョン・レノックス著、2020年、いのちのことば社発行

### ◆『コロナウィルスとキリスト 未曾有の危機に聖書を読む』

ジョン・パイパー著、2020年、いのちのことば社発行

上記2冊は、音声訳・点訳ともに間もなく完成予定です！

貸し出しご希望の方は、いつでも盲伝センターまでお知らせください。  
(TEL: 054-295-0496)

## 主の導きに感謝して

HUMIHITO TANAKA

田中 文人 さん

(日本バプテスト連盟有明キリスト教会牧師)



1963年2月生まれの私は、今年満57歳になりました。57年生かされていることに、まず感謝しています。また、教会の方々と家族の祈りと協力を支えられ牧師の働きを続けられていることも、感謝です。

### 1. 発病と障害

生後間もなく、私は、全身に湿疹が出来る腸性末端皮膚炎という大変珍しい皮膚病を発症しました。両親は医師から「5歳くらいまでしか生きられないでしょう」と告げられたそうです。

診断通り、5歳のときに皮膚病は悪化しました。特効薬を服用し、命は助かりましたが、一夜にして両眼視力は眼前手動、両足も膝から下が麻痺しました。キノフォームの副作用によるスモン病でした。現在も湿疹はありますが、日常生活は保たれています。また、点字使用者で白杖と松葉杖の3本を使って歩いています。

### 2. 救いの恵み

教会には7歳頃から、クリスチャンの母に連れられて妹と一緒に通う様になりました。数年後、「この人に神の業があらわれるためです。」(ヨハネ9章3節)の御言葉が示され、13歳でイエスさまを信じてバプテスマを受けました。

ですが、イエスさまが私自身の罪のために死んでくださったことに本当に気付かされたのは、その10年後でした。皮膚炎が悪化し、「神様、どうしても入院したくありませんから、治してください。」と初めて心から祈りました。何とも勝手な願いですが、神様は聞いてくださり、入院せずに回復したのです。祈りが聞かれることを体験し、これまで神様に背を向けて生き

て来た罪を悔い改め、十字架の血による赦しをいただきました。その時から毎日聖書を読み静思の時を持つようにも変えられました。

### 3. キリストの弟子の歩みを願って

その後、公務員として公共図書館で12年間、障害者サービスを担当しました。利用者の方々と接する中で、キリストの福音を伝えることに専念するよう示されていきました。

しばらく祈る中で、「私主は、義をもってあなたを召し、…あなたを見守り…。」(イザヤ42章6節)の御言葉が与えられ、牧師になる決心をしました。親元から離れての独り暮らし、神学校の学び、そして結婚と、解決されなくてはならない課題が多くありましたが、それらひとつひとつを神様は時に適って満たしていただき、2004年4月に有明教会に遣わされ現在に至っています。

有明教会は、10数人の小さな群です。少人数であることもあり、新型コロナウイルスの自粛期間中も、感染防止に努めながら、主の日の礼拝と水曜午前の祈禱会を続けることが出来ました。その間、習い事や会合が中止になり、教会に来られる様になった方々もおられます。人知を遥に超えて働かれる神様の御業に、ただ感謝しています。

いま私は、イエスさまの弟子になり直すよう示されています。真理であり光そのものである救い主を聖書から最大限忠実に紹介する働きに用いられるよう、お祈りくだされば幸いです。

7月に発生した九州南部豪雨災害での支援事業を下記の団体が超教派で行っています。詳しくはお問合せください。  
九州キリスト災害支援センター 電話：07076602280 メールアドレス：kyushuchristdrc@gmail.com

## 主に導かれて ― 点訳がライフワークに

金子道弘（点訳者・横浜市）

点字との出会いは、基督教「ルーテル」機関紙での点訳者募集記事でした。

読み方練習、書き方練習、自由課題で6枚ノーマスを6か月かかって、37歳（1977年）に日本点字図書館の点訳奉仕者になりました。厚めのA4に点筆を使い、1、2字の書き違いは糊を薄く延ばして訂正して…。大変な作業でした。

1990年頃にパソコンで点訳が可能になり飛躍的に能率が上がりました。

94年から、95年にかけて、「カラマーゾフの兄弟」上下29巻、96年「レミゼラブル」4冊全40巻なども点訳してきました。

1983年から87年にかけて一般高校に通う盲学生への教科書点訳の個人点訳を神奈川のグループで行い、数学と化学を担当しました。

60歳で定年を機に「盲人伝道センター」の点訳者となり、基督教関係書を点訳・校正することになりました。

現役中は土日と帰宅後の3時間位しかとれなかったのが、365日作業可能になり、点訳・校正は飛躍的に増やせるようになりました。

鎌倉雪ノ下教会の点訳グループの加藤常昭牧師の図書の校正が、かなり大量でしたが懐かしい思い出です。

また、10年来点訳を続けている、ネット週刊配信「世界基督教情報」（ひと月ごとにテキスト校正・編集）の点訳校正をずっとしていただいた上原姉が昨年引退され、私も高齢なので後継者にお渡ししたい状況です。

ところで、自己校正にはカセットテレコが必須です。6.7年前まではソニーの可変速でカウンターもありオートリバース機がありましたが、最近不要なラジカセ機能付で再生も不便なものしかなく、3回の校正に苦勞しています。（点訳・録音・校正と最低4回は原本確

認が必要なんですけど・・・）

70歳（10年前）に後継者育成のために、「るーてる」や盲伝にお願いして点訳者を募って通信添削を始めましたが、現在も継続中ですがはかばかしくありません。

基督教図書は専門図書であるため、全国ネットの一般図書館では作成されないために、険しい状況です。

でも、主の道に備えあり。で主が御心により点訳継続の人材を準備して下さると信じ祈っております。

## 「道の曲り角に立って」

望月千雅子（利用&奉仕者・静岡市）

去年の8月に米国から帰国しました。両親も高齢になって参りましたし、私もそんな両親の元に居るべきではないか、と感じ帰国を決めたのでした。教鞭を取っていた大学

での契約期間もちょうど更新時期に来ていたので、思い切って背中を押された形での帰国でした。正直当初は海外で仕事を続け、在住し続けることが出来ない、と言うことがとても残念で、自身帰国の決心を誤った選択をしたように感じて思い悩みましたが、今では私がした選択も神様の御心ではないだろうかと思えるようになって来ました。

今後は就職先を探しながら、静岡基督教盲人伝導センターにおいても主に喜んでいただける御奉仕を続けさせていただければ、と願っております。就職も、私の今後の歩みも主が導き、私の進むべき道を必ず開いて下さることを信じ、確信しつつ前進致して参りたいと思っております。

「道を曲がった」先に主が私のために何を用意して下さるのかとても楽しみでなりません。



### AIトーク（音声合成）音訳を始めます

現在、駅や公共施設、企業など、さまざまなところでAI（音声合成）による案内が用いられています。AIによる音声合成も人間が生で録音される音声にかなり近づいてきていて、自然な言葉で聞き取れるようになってきたことから、静岡基督教盲人伝道センターでも、AI（音声合成）による音訳を取り入れることを考えています。学習機能があり、比較的容易に文字データを音声に変換できますので、御自宅にパソコンがあれば、ソフトをインストールして音訳することが可能です。センターで作られた基督教の音訳図書や月刊誌が、さらに多くの方々に用いられて、人々の信仰の養いとなり、キリストによる救いに導かれる方々がたくさん起こされますようにと祈り願っています。（遠山）

